



クローズドノート 雫井脩介
出版社 角川書店

出版社 / 著者からの内容紹介

『火の粉』『犯人に告ぐ』の俊英が贈る、新たなる感動作!

香恵はバイトとサークルに勤しむごく普通の大学生だ。ある日、前の居住者が置き忘れたノートの束を見つける。興味本位でノートを手にする香恵。そのノートが開かれた時、彼女の平凡な日常は大きく変わり始める。

トーマス書評

雫井小説のファンからすると意外な一冊であろう。それまでの硬派のイメージを一転させた恋愛小説である。しかも、夢見る乙女が主人公である。

最初は、雫井作品としては違和感があると感じていたが、最後までいっきに読んでしまった。感動の一冊である。

主人公の香恵は、平凡な大学生である。ある日、自分の部屋に、前の居住者が忘れていったノートを見つける。その主は伊吹先生という小学校の先生である。伊吹先生は、学校での出来事や自分の恋愛のことをノートに書きとめていた。香恵は、伊吹先生を応援するとともに、自分の恋愛を伊吹先生のそれと重ね合わせる。

そして、ノートを渡そうと、訪ねて行って伊吹先生に起きた真実を知る。人生の無常を感じる一冊でもある。しかし、なぜか爽やかさも。ぜひ読んでほしい。

実は、この本は映画化され話題を呼んでいる。残念なことに、その内容ではなく、主人公の香恵を演じた沢尻エリカの舞台挨拶での傍若無人な態度である。

もちろん、人間であるから、時には不機嫌なこともある。しかし、「クローズドノート」の一ファンとして残念なのは、小説の中の香恵とは、あまりにもかけ離れた行為であるという点である。香恵のイメージをくずしてしまった。この点が、作者や共演者に対しても失礼であろう。これで映画は、まったく見る気がなくなった。

本人は、いま反省しているということであるが、大切な小説ファンの心をも裏切ってしまったことを自覚してほしい。